

品川支部

令和二年2月1日発行
〒141-0022
品川区東五反田1-8-5
Tel. 3442-7075

2月

天理教品川支部（豊英分教会内） 発行責任者 栗原薫 編集 支部編集部

品川支部内教会 元一日の冊子が完成

品川支部所属教会

元一日

東京教務支庁創立百十周年



平成二十八年の十月から三十年七月まで連載致しました品川支部内の教会の「元一日」を基に、元教区長中臺春満先生のご協力等頂きまして五十二頁に渡る冊子を完成させました。

改めて本にしてみるとまた違った趣が出て、この界限で活躍された先人の思いが一層伝わって参ります。

ご興味ある方は、50冊限り時報読者には先着順で無償で一冊お分けしたいと思います。
お近くの支部内の教会に希望して頂ければ、ご用意させて頂きますのでお申し付けください。

☆支部行事のお知らせ

・支部例会二月二十八日(二頁参照)

・神名流し

二月一日 大井町駅前

・在宅センターひのきしん・婦人会初例会

二月二十五日(火)午前九時半〜十一時、

・教区ひのきしん

今月は本品組です。よろしくお願ひします

☆教務支庁からのお知らせ

・創立百十周年記念行事

四月四日は真柱様ご夫妻、大亮様ご夫妻のお出ましを頂き教務支庁百十周年記念の祭典が催されます。

当日は、駐車場が有りませんので巣鴨駅からマイクロバスにて、送迎を行います

又、現在、記念品、弁当の数等注文の為、当日の係員の方を含めて参加者数の把握しているところです。

支部ごとの集計という事で、自教会が近くに無い方もお近くの教会の参加表に人数等を記入お願い致します。

東京教区創立百十周年記念祭要項

祭典

午前十一時祭典開始

祭文奏上・真柱様お言葉・おつとめ・教区長挨拶
記念写真後、各催しもの(拝殿)

受付 及び 記念品

受付にて「参拝券」を提出いただきます
「参拝券」は3月4日以降に支部を通じて教会に配布されますので、それまでに近くの教会に申し付け下さい

受付で「記念品」「お弁当引き換え券」をお渡します
弁当は祭典終了後に受け取り頂けます

・本部車いす払い下げ

皆さんのご厚意により、本部の車の更新がされて旧型の車いすを修理し、五千円で払い下げる事になりました。ご希望の方は支部の厚生部に申し込みください。

・さんさいの里植樹

奈良県全体で、森林の害虫による被害が拡大しています。さんさいの里の森もほぼ全滅という事で、数十年後を見込んで植樹計画を行います。楢・クヌギの木が鹿の被害を受けない為にある程度の大きさが必要だそうです。皆さんの協力をお願いします。

拠点教会	2日号	9日号	16日号	23日号
日本橋	直送	手配り	手配り	手配り
本 荏	手配り	手配り	手配り	手配り
都 南	手配り	手配り	手配り	手配り
三ツ木	直送	直送	直送	直送
水豊田	手配り	手配り	手配り	手配り

時報手配り二月予定

品川支部例会

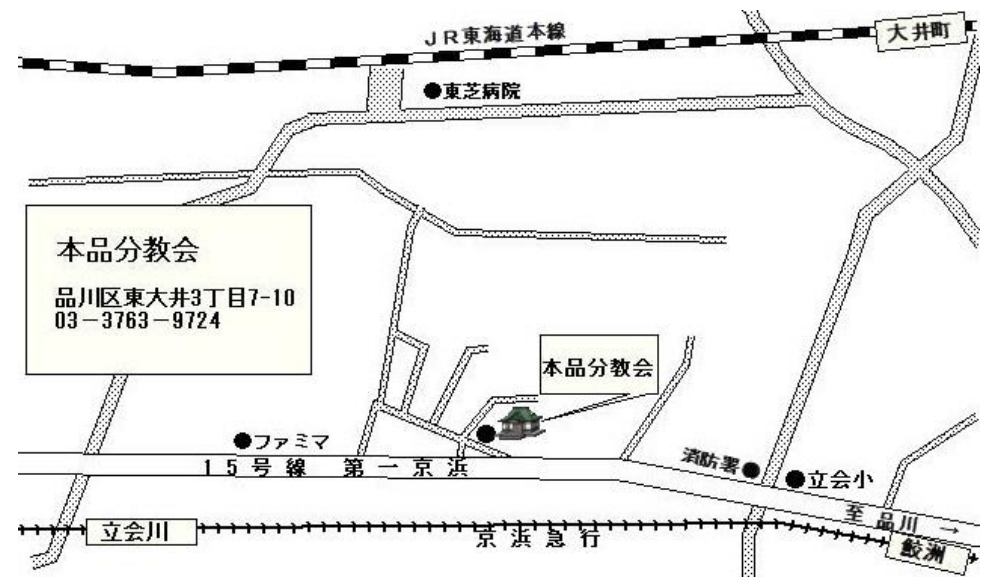
令和二年2月28日 (金) 11時開始

場所 本品分教会

(品川区東大井3丁目7-10)

内容 おつとめよろづよ八首 二下り目 東京教区、支部連絡事項 当該教会長 挨拶 昼食の用意頂いてます

***各教会の方のほかどなたでも (白足袋ハッピー着用)**



一年の始まり

成東分教会



早いもので、正月の気分も残しつつひと月が過ぎて参りました。
皆様におかれましては、お健やかに過ごされたこととお慶び申し上げます。
天理時報一月十二日の号に、真柱様の年頭あいさつが掲載されておりました。その中に「一年前を振り返ってみると、少しずつ体のほうも回復しているように思う」と話されたこともあり、新年の晴れやかな気持ちと共に何かうれしい思いを感じさせてくださいました。
一月号でも触れられておりましたが、今年の干支は「庚子(かのえね)」であります。「庚」という漢字は、杵を両手で持ち上げる象形と植物の成長が止まって新たな形に変化しようとする象形からできた文字で、「かわる」や「つく」という意味がある。

これらを考え合わせると、「庚」とは結実の後に転身することを意味し、又「子」は生命のスタートであり、繁殖や発展の意味であります。十柱の神、甘露台づとめの配置では北に位置します。くにとこたち命様という事でお教えいただきますのは、くにとこたち命様は一年では一月、冬、頭の理、教会では会長の理、会社では社長、家庭では父親、主人、夫婦では夫の理など頭に立つものの理などと聞かせていただきます。
私事ですが、一月は忙しく自教会の御用もさることながら、二年前に上級の会長が出直され、生前に申しつけられた関係で、上級の普段の御用から月次祭・大祭の代理的に御用させていただきました。
一月十五日に春季大祭も無事に勤めることができたのですが、そこでちょっとしたことから、この庚子の教えについて思案させていただいた事がありました。
大祭祭典後の直会用に支部からビールサーバーをお借りしたのでした。

ところが、いざ使用しようとコックを開いても何も反応がなく、慣れているかた数人と1時間ばかりいろいろと試しましたが、結局使用できませんでした。その姿をみてもおられた役員の方の御婦人さんに「真会長さん、そんなことは二の次で、春季大祭は、教祖が二十五年もの定命を縮めてまでおせき込み下さされたおつとめが主なんだから、使えなかつたら普段の瓶のビールでいいじゃないですか」といわれました。ビールサーバー使用に固執していた私はハッと思われました。おつとめではなく、その後の直会の方ばかり心を置いていた自分のつとめ方を反省させられました。後に判明したのは、ビールサーバーのホースが逆に接続されていたのです。いくら良い器具や物があっても、その動作原理が間違っているは何もならないように、それを信仰に転じて思案したとき、こどももかわいいと神様のお働きは充分にお与えくださっているのに、受取る方にその受け取る理という道理が、それに

沿っていなかったり、歩み方が自分の考えなどから、神様の思いと自分の考えが逆だど、その効能はいただくことが出来ないのではないかと、私は年の初めの祭典日に考えさせられました。前述の「庚子」が表す新たな芽吹きと繁栄の始まり、また、くにとこたち命様の理から思案させていただく、頭に立つものの理をしっかりと心して通らしていただけるように、少しずつでも努力していきたいと改めて正月早々考えさせられる出来事でありました。

三本真

